



七十人  
ジャイロ・  
マサガルディ長老

# 母から学んだこと



わたしが小さいころ、母は、お金が手に入るたびに、その中で一番しわがなく、よごれていない、最も良いようにお札を選んで、そのころ行っていた教会の牧師さんにわたしたちの母は生涯ずっとそうしていました。いつも「これは神様のものだから」と言っていました。その言葉はずっとわたしの心に残っていました。わたしが大人になってから末日聖徒イエス・キリスト教会でバプテスマを受けたとき、什分の一をおさめるのは難しくありませんでした。母がそのいましめにしたがうように教えてくれたからです。

わたしの母はまた、たとえそれがむずかしくても、正直であるようにということも教えてくれました。わが家のとなりに、あらゆる種類の果物や野菜を育てている人がいました。ときどき、実った果物がフェンスをこえてわが家の方に来ることもありました。あるとき、わたしがこの果物を取って、母のところにもって行ったことがありました。母はわたしを見つめて、「それはわたしたちのものではないわ」と言いました。わたしは、信じられませんでした。わたしはずねました。「どういう意味なの。フェンスの

こっち側になっていたんだよ。」すると母はまた言いました。「それはわたしたちのものではないのよ。」そしてわたしの手を取ると、一緒にとなりの家に歩いて行きました。勝手に果物を取ってしまったことをゆるしてくれるようにたのみました。もし何かほしいものがあつたら、正しい方法でそれを手に入れる必要があると教えてく

お父さんやお母さんにたずねてみましょう。

親であることのどんなところが好きですか。

何が一番むずかしいですか。

どんなときに幸せを感じますか。

毎日することの中で一番大切なのは何ですか。

もっと良い親になるために、福音はどのように役立ちますか。

毎日一番最後にすることは何ですか。

他にどんな質問ができるでしょうか。

一日、お父さんやお母さんの、かげの助け人になってください。学んだことについて日記に書いたり、絵でかいたりしてください。親がしてくれる全てのことについて感謝を伝えてください。

れました。

もしかしたら、みなさんの親が教会員ではなかったり、親と意見が合わなかったりすることもあるかもしれませんが、それでも、正直やせきにん、自立、熱心に働くことなど、真実の原則を親から学ぶことができます。それらの原則は、あなたの人生で大きな祝福となるでしょう。■